

これがあしの
空じや。

『坂の上の雲』にみる俳句



第13回企画展テーマ展示

2019年2月26日(火)～2020年2月13日(木)

休館日：毎週月曜日(休日の場合は開館) 開館時間：午前9時～午後6時30分(入館は午後6時まで)

観覧料：一般 400円(320円) 高校生 200円(100円) 高齢者(65歳以上) 200円(160円)

※中学生以下は無料 ※()内は20名以上の団体割引料金

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

坂の上の雲ミュージアム第13回企画展テーマ展示

「これがあし、の空じや。―『坂の上の雲』にみる俳句―」

小説『坂の上の雲』に登場する伊予松山生まれの三人の主人公のひとりが正岡子規です。「なにをするにも東京だ」と明治の若者の多くが東京への憧れを抱いたように、子規も上京して東京大学予備門にすすみました。子規は、政治や哲学など多方面への興味をもちながらも、しだいに文芸に魅了され、創作や研究に没頭していききましたが、その多感な時期に不治の病である肺結核を患います。子規は病に苦しみながらも生きることや表現することに楽しみを見だし、「俳句復興の松明になる」ことを決意します。

「病床六尺、これが我世界である。しかも此六尺の病床が余には広過ぎるのである。」(『病床六尺』 明治35年5月5日)

今回の展示では、『坂の上の雲』に描かれた子規の「たたかい」を、病床六尺の世界を中心にたどりま。



1

1. 子規画「床の間写生図」(河野美術館所蔵)
- 2/3. 子規旧蔵「一本足の蛙の置物」と「ガラス製のカップ」(子規庵保存会所蔵)
4. 子規が批評をいれた句会稿「はれの日」(虚子記念文学館所蔵)
5. 子規俳句短冊「猩脂に何まぜて見むほたんなかな」
6. 子規作「蕪村寺再建縁起」(『ほととぎす』4巻4号より)
7. 子規自画像(松山市立子規記念博物館所蔵)



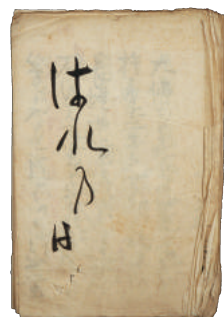
2



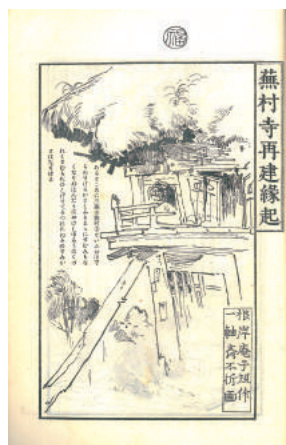
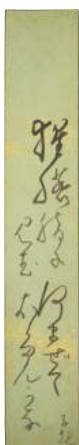
3



4



5



6



7

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UENO KUMO MUSEUM

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地 TEL 089-915-2600 FAX 089-915-3600
E-mail:saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp URL:http://www.sakanouenokumomuseum.jp/

- アクセス
- ・JR松山駅から [所要時間約10分] 市内電車(道後温泉行)——大街道下車——徒歩2分
 - ・道後温泉から [所要時間約10分] 市内電車(全線)——大街道下車——徒歩2分
 - ・松山空港から [所要時間約30分] リムジンバス(道後温泉行)——一番町下車——徒歩2分
 - ・松山観光港から [所要時間約30分] リムジンバス(道後温泉行)——一番町下車——徒歩2分
 - ・松山自動車道松山インターから [所要時間約20分]

